

Biz [ビズスタ] Life Style



Pasha de Cartier

時代を超越する普遍的な美。カルティエ ウォッチ。

Santos de Cartier

飛行中に時計を見たい。飛行士の願いから生まれた革命。



Laziz Hamani © Cartier



Laziz Hamani © Cartier

当時のオビニオンリーダーやインフルエンサーが先を争うように愛用したため成功者のステータスと認識されていたが、今回のリニューアルでは何かを成し遂げた達成者、これから成し遂げたい挑戦者がベルリナとして想定されているという。前述のアンバサダーたちは、そのシンボルにあたるわけだ。経済性から社会性へ、視点のシフトは流れを掴むはずにはいられないが、驚いたことに、デザイン面はほぼ不変。細部がよりモダンかつラジエラリーにブラッシュアップされているが、基本デザインはオビニオンに忠実なのだ。30年以上を経た現代でも見惚れてしまうのだから、カルティエの美の普遍性には改めて驚かされる。

今回のリニューアルでは、ジュエリーウォッチからスケルトンまで多彩なモデルが用意された。ラウンド型のケースとスクエア型のミニットトラックが配された文字盤の組み合わせ、グラフィカルなダイヤル、サファイアクリスタルの裏蓋越しに視認できる進化したムーブメント、カポションカットのブルースピネルまたはサファイアを施したカバー付きリューズなど、見どころは実に多い。

もっぴい注目したいのが、実はストラップだ。アタッチメン

トが大幅に変更され、ステイラ製プレスレットもレザー製のストラップもオプションで付け替えることができる。インターチェンジ可能な仕様。ストラップは、部材を除き、2種ずつ用意されているので、公私で着替えるのも面白いだろう。

「サント」はその代表的な例と言える。その中でも先の新作コレクションが発表されたが、基本デザインは誕生した1904年から百年以上たわたり不変というのだから圧倒的だ。現在は「サント」で「カルティエ」に加え、原点回帰の意味を込めた「サント」デューモンも展開中のコレクションは、やはりカルティエのライオンの中核に時刻を確認したいと願うフラジール飛行士の友人のために創作した時計が「サント」。懐中時計から腕時計へとというフレキシブルの原点となった革命的製品で、一度見たら忘れないケースと文字盤のイメージはそのままに、少しずつ進化を遂げてきた。

今回は、スケルトンモデルの新作や、珍しいオールブラックモデルなどが登場。ケースのサイズや薄さも含め、系譜を辿るとまるで四方八方へ枝を伸ばす大樹のように見える。正真正銘の名品。ぜひ、じっくり味わってみたい。



© Cartier
Vincent Wulveryck
サントス ドゥ カルティエ
CRWWSA0015
47.5×39.8mm
手巻き
ステンレススティール/プレスレット
3,234,000円(税込)



© Cartier
サントス ドゥ カルティエ
CRWSSA0039
47.5×39.8mm
自動巻き
ステンレススティール&ADLC加工
レザーストラップ、ラバーストラップ
896,500円(税込)



© Cartier
サントス デュモン
CRWWSA0032
46.6×33.9mm
手巻き
ピンクゴールド/レザーストラップ
1,808,400円(税込)



© Cartier
サントス デュモン
CRWSSA0022
43.5×31.4mm
クォーツ
ステンレススティール/レザーストラップ
451,000円(税込)

Pasha de Cartier

時代を超越した不変の美。1985年の伝説が、いま、再び。



Maud Remy-Lorvis © Cartier

腕時計の歴史を大きく塗り替えたメソンの新作

本物志向の大人を魅了する機械式腕時計には、この味わいがある。この無数の歯車が「系乱れず仕事に励む」工学的な美。まるでこの街のようにも見える複雑を極めた機構部は、時計本来の魅力そのものだ。

もっぴいこの美については、明確な立役者が歴史にその名を刻んでいる。腕時計の世界に「芸術としての美」を持ち込んだのは、このメソンを創り出した。かになじ。

宝飾工房からジュエリーそして真のミニマクチュール

腕利きの宝石細工師だったルイ・フランソワ・カルティエがパリの街角に工房を構えたのは1847年のこと。早々に各国王室の御用達へと昇りつめ、勢力を増して宝飾業界だけでなく時計分野へも革命の裾野を拡大する。カルティエの大躍進は、機構の精度を競い続けていた当時の時計師たちに衝撃を与え、時を告げる機械だった腕時計を、ジュエリーのように自由に愉しむ自己表現アイテムへと塗り替えたのだ。

ウォッチ製品は、ムーブメントと呼ばれる機構部とそれを包むケース部分を別の会社が製造していることが多い。1本の時計を開発するには、多くの場合、両者が互いの協力を仰ぎ合うことになるわけだ。カルティエは長くケースづくりを担ってきたが、その無限の探求心がデザイン分野のみに留まるはずもなく、滴を垂してムーブ



Raymond Meyer © Cartier

メントの設計へと進出。現在では時計製造の全工程を自社で完結できる数少ない真のミニマクチュールのひとつに数えられる。

すでに170余年の歴史を紡いできたカルティエは、いまも「腕時計の美の最先端」にいる。毎年、多種多様な新作を発表し続けており、近年は愛好家たちが歓声をあげるようなサプライズも多い。その中心が、ここ数年にわたり市場を沸かせている往年の名作のリニューアルだ。

メソンの洗練されたスポーツウォッチ「パシャドゥカルティエ」

5人の新世代アーティストらアンバサダーに起用して世界的に話題を集める「パシャドゥカルティエ」は、硬軟自在で縦横無尽なカルティエのデザインカンの象徴とも言えるだろう。何しろ、この美貌にも関わらず、実はスポーツウォッチなのだ。

市販品としてオリジナルモデルが登場したのは1985年だが、ルーツは実に1943年にまで遡る。3代目当主のルイ・カルティエがモロッコにマダモアの太守から依頼された水泳用の防水時計が始まり。事実、「パシャ」の名は太守を指す単語なのだとか。



© Cartier
パシャドゥ カルティエ
CRWJPA0013
35mm
自動巻き
ピンクゴールド、ダイヤモンド
プレスレット、レザーストラップ2本
4,488,000円(税込)



© Cartier
パシャドゥ カルティエ
CRWGA0007
41mm
自動巻き
イエローゴールド
プレスレット、レザーストラップ2本
1,940,400円(税込)



© Cartier
パシャドゥ カルティエ
CRWSPA0009
41mm
自動巻き
ステンレススティール
プレスレット、レザーストラップ
781,000円(税込)



© Cartier
パシャドゥ カルティエ
CRWSPA0012
35mm
自動巻き
ステンレススティール
レザーストラップ2本
665,500円(税込)

Tank

時計の常識を塗り替えた、永遠のマスターピース。



Photo 2000 © Cartier
タンク アメリカン
CRWB710015
27×15.2mm
クォーツ
ホワイトゴールド、ダイヤモンド/レザーストラップ
2,032,800円(税込)



© Cartier
タンク フランセーズ
CRW4TA0008
25×20mm
クォーツ
ステンレススティール、ダイヤモンド/プレスレット
863,500円(税込)



© Cartier 2019
タンク フランセーズ
CRWGTA0029
25×20mm
クォーツ
ピンクゴールド/プレスレット
2,336,400円(税込)



Vincent Wulverlyck © Cartier
タンク ルイ カルティエ
CRW1529856
29.5×22mm
クォーツ
イエローゴールド/レザーストラップ
1,069,200円(税込)



Laziz Hamani © Cartier

まるで巨匠が指揮するクラシックの名曲か、それとも欧州の歴史的建築物か。「古びない」「色褪せない」「時代に左右されない」という意味において、カルティエは数ある欧州の名門メゾン群でも屈指の存在と言える。

そして、このページで紹介するコレクションこそは、その極致とも呼べる。名作揃いのコレクションでもひときわ眩く輝く「タンク」は、やはり百年以上前の1917年に誕生した歴史的なタイムピース。年表の上では前ページの「サントス」から少し遅れるが、懐中時計から機械式腕時計への移行に大きく貢献した作品であり、オールニューヴォーからアールデコへの進化を先導したルイ・カルティエ自身の愛用モデルを含むなど、名エピソードに彩られたカルティエウォッチの代表的な製品だ。

長い縦枠が黄金比のようにも見える独特の四角形をベースに一切の無駄を省き、ケースとラグを一体化するという画期的なデザインは、第一次世界大戦中に導入された戦車にヒントを得たとされている。そのままタンクと名付けられたこの作品は、米国のヨーロッパ派遣軍総司令官

時代に流行も関係ないと証明し続ける美のメゾン。本誌で紹介した実物は下記店舗で体感できるので、ぜひ足を運んでみていただきたい。一生味わえる美の世界に出会えるはずだ。

誌面の都合から駆け足で新作や注目のコレクションを紹介してきたが、残念ながら、この文字数では各コレクションの見どころの半分も紹介できない。なぜなら、手に取り、腕に着けて初めて伝わる感覚も、カルティエウォッチの魅力の大きな要素となるからだ。

贈られた後、1919年に一般発売へ。平和の到来への喜びを軸に、自由で洒脱、圧倒的にエレガントなエスプリを「カルティエの美」で華麗に仕上げたタンクは即座に大人気となり、腕時計時代の隆盛とともにメソンのアイコンの一角として長く愛されることになる。

その人気に応える形で、タンクのコレクションには、さまざまなバリエーションが派生している。戦時中の着想ながら、現在はユニセックス仕様や女性向けモデルを展開中だ。上下方向のサイズを大胆に増してさらに優美さを強調したり、クォーツの新ムーブメントを採用したり、ゴールドやダイヤモンドを贅沢に使うプレスレットウォッチを追加したり...と、近年も自由奔放に美を愉しむかのような新コレクションを続々と世界に届けている。

掲載した商品の価格は令和3年1月31日時点のものです。価格や仕様は予告なしに変わることがございます。

Biz Life Style Pick up >>>

時代を超えて愛されるカルティエの美を堪能できる特別フェア
120年超の歴史を誇る徳島の名店「池田時計店」で開催



明治30年創業、実に120年超の深い歴史を誇る名店としてウォッチファンの信頼を集める「池田時計店」。この3月20日(土)・23日(火)は旗艦店の「IKEDAプラス」にてカルティエフェアが開催される。さらに、3月25日(木)・26日(金)の2日間はスペシャルフェアも予定。こちらは豪華客船を思わせる優雅なレストランに会場を移してのイベントで、この日のために特別なコレクションも用意されているというので、これは見逃すわけにはいかない。

カルティエ特有の世界観に満たされたラグジュアリーな空間で、不変の美を満喫できる2つのフェア。詳細は店頭で。

■3/20(土)~23(火)「IKEDAプラス」In store Fair ※3密対策の為、下記QRコードより来店予約をお願いします。
■3/25(木)・26(金) Special Event ※詳細は「IKEDAプラス」スタッフまでお問い合わせください。

取り扱いブランド

カルティエ、IWC、ラルフローレン、オメガ、センチュリー、タグ・ホイヤー、グランドセイコー、クレドールなど



ジュエリー・ウォッチブティック IKEDAプラス
徳島市東船場町1-22 TEL.088-678-3080
営業時間/11:00~20:00 無休

<https://ikd-grp.com/>

